

綱かけ神事

匠 探訪

177

昨年来の新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、正月の伝統行事の実施が気掛かりでした。

山桑(匠瑳地区)の「綱かけ神事」は、『広報そうさ』(平成31年2月号)に「山桑の稲荷神社で昨秋に収穫された稲わらを使って8mに達する大注連繩めなわを結び上げる『綱か

け神事』が行われました。完成した注連繩は神社正面の鳥居につるされ、家内安全や無病息災を祈願しました。」と紹介されています。

筆者が初めてこの行事を見たのは昭和40年代半ば、50年ほど前になります。当時は朝8時半ごろから当番の家で作り始め

とイメージが重なったことによりです。

綱の形は当時と変わりませんが、戦前までは完成した綱を拝殿前に掛けておき、それを集落の子どもたちが村中を引き回したと聞きました。

千葉県立大利根博物館の『調査研究報告(第7号、平成9年発行)』で秋山笑子氏がこの行事を詳しく報告しています。

同氏は綱を蛇か龍として作る手順も掲載され、わらで蛇を作る行事は県内35カ所があり、調査時では28カ所で行われていたと報告されました。香取海匝地域では、多古町の2カ所と本市の山桑と時曾根(豊栄地区)の「大蛇まつり」が取り上げられています。

稲荷神社は「八社参り・長路コース」に組み込まれ、新年に掛け替えられるので、年中見ることができます。

(市文化財審議会委員・依知川雅一)

問 秘書課 広報広聴班

TEL 73・0080



稲荷神社の注連繩

す「益綱」